

平成26年度 日野市立日野第一中学校経営重点計画				自己評価シート				平成27年3月公表							
★学校教育目標								★重点計画の概要							
★目指す学校像（ビジョン）								(1)基礎学力の充実と学力向上 1年次において、数学に力を入れ授業を行う。数学の少人数集団による学習指導、習熟度別指導、TTによる授業を展開し、小学校の遅れを取り戻させる。 (2)健やかな生徒の育成とスポーツ活動の推進 体力の向上を目的に体育の授業の充実、部活動の奨励をもとにスポーツ活動の推進を図る。 (3)保護者・地域に開かれた、信頼される学校づくり 学校からの情報を多く発信し、学校の様子が良く見える信頼される学校づくりを進める。							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
子供	学ぶ楽しさを味わい、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育て、学力向上を図る。	教員はユニバーサルデザインを意識した授業を実践し、ICT機器を活用し分かる授業を展開する。生徒は分かることの楽しさを味わい、自ら進んで授業に参加させ、基礎学力を身に付けさせる。	教員は、特別支援教育のステージ②までを実施し、個に応じた授業を行う授業を実践する。生徒自ら学び、授業中の課題、宿題を確実にを行うなど、家庭学習が定着するように指導を行う。	2	4	授業のUD化・ステージⅡを含む授業改善、個に応じた授業双方ができた職員の割合が80%以上	1	4	授業中は自ら進んで学習し、宿題を毎回出せた生徒の割合が80%以上	学校公開時に寝ている生徒がいる。公開時に寝ている生徒は心配である。1年生の成績が年度当初に比べ上がっているが、授業のユニバーサルデザイン化の成果ではないか。 発達障害の生徒の割合もかなりいるので、小学校のように学習ボランティアが必要ではないか。	生徒アンケートでは36%の生徒が毎回出すことができていた。半分以上出せた生徒と合わせると79%の生徒が、概ね出すことができた。逆に「あまり出せなかった」「ほとんど出せなかった」生徒は2割いた。この点を重視し、来年度は、学校全体で、提出物の徹底を図っていく。 UD化ができた教員の割合は71%。個に応じた指導ができた教員の割合は46%であり、3割の教員が両方ともできていない現状である。来年度は、研修会を増やし、夏季休業中のUD化授業の研修会に参加させ、UD化の知識・技能を高め、授業に反映させていく。				
					3	授業のUD化・ステージⅡを含む授業改善、個に応じた授業双方ができた職員の割合が80%未満		3	授業中は自ら進んで学習し、宿題を毎回出せた生徒の割合が80%未満						
					2	授業のUD化・ステージⅡを含む授業改善、個に応じた授業双方ができた職員の割合が60%未満		2	授業中は自ら進んで学習し、宿題を毎回出せた生徒の割合が70%未満						
					1	授業のUD化・ステージⅡを含む授業改善、個に応じた授業双方ができた職員の割合が40%未満		1	授業中は自ら進んで学習し、宿題を毎回出せた生徒の割合が60%未満						
子供	人権意識を高め、自分を大切に、より良く生きる力を育む。	道徳授業を通し、道徳心、人権意識を高め、あいさつやマナーなど、社会生活の基本を育て、実践できる力を育てる。	平素より、教師自ら挨拶を励行し、生徒があいさつしやすい環境を作り。生徒自らが率先して挨拶ができるようにする。 また、いじめ調査を月一回行い、いじめの早期発見を行う。	3	4	あいさつ運動への参加といじめ調査実施後の早期発見・対応ができた職員の割合が80%以上	4	4	自ら進んで挨拶ができるようになったと実感できた生徒の割合が80%以上	学校公開時に挨拶をしてくれる生徒が増えたと感じる。小学校の前を通る中学生が挨拶をして来てくれる。 あいさつ運動に参加する教職員が多く良いことである。	生徒アンケートでは、「とても思う」「どちらかと言えばそう思う」合わせて86%の回答であった。概ね挨拶ができている状況にあり、学校公開のアンケートにおいても挨拶ができるようになったとの評価もいただいている。中には挨拶ができなくなっていると記載した保護者もあり、平素より挨拶をする指導を行っている。 教職員の挨拶、いじめに対する早期発見・対応、両方を行った割合は75%であった。いじめ対応は89%の職員が行うことができた。月に一回のいじめ調査で職員の意識は向上し、発見から対応までを短期間で行うことができた。来年においても月一回のいじめ調査を実施するが、書かない生徒もいるため、生徒が書きやすいアンケートや記入する場所の工夫を改善する。				
					3	あいさつ運動への参加といじめ調査実施後の早期発見・対応ができた職員の割合が80%未満		3	自ら進んで挨拶ができるようになったと実感できた生徒の割合が80%未満						
					2	あいさつ運動への参加といじめ調査実施後の早期発見・対応ができた職員の割合が70%未満		2	自ら進んで挨拶ができるようになったと実感できた生徒の割合が70%未満						
					1	あいさつ運動への参加といじめ調査実施後の早期発見・対応ができた職員の割合が60%未満		1	自ら進んで挨拶ができるようになったと実感できた生徒の割合が60%未満						
子供	自らの心と体に関心を持たせ、運動を通して体力の向上を図るとともに、望ましい食生活、生活習慣を育ませる。	子どもたちが身の回りにある危険を予測し、回避できる力を身に付け、安全を意識して行動できる力を育てる。自分の心と体への関心を高め、望ましい食、生活、運動習慣を身に付けさせる。	月一回の安全指導、避難訓練を適切に実施し、生徒の意識を高めた授業を実施する。また、引き取り訓練、小中連携防災訓練において、生徒を積極的に参加させ、自ら危険を予測し、他者の安全を意識した行動がとれるように指導する。	4	4	安全指導、避難訓練を通して生徒に望ましい防災の意識を育むことができた教員の割合が80%以上	1	4	地域、PTA、小学校と協力した行事に参加し、自ら考え判断できるようになったと答えた生徒の割合が80%以上	合同引き取り訓練はPTAからも保護者へ情報提供を早めに行い、参加者を増やしていければと思う。3年に一度は消防団との連携を行なってほしい。 一中の校舎は安全である。校庭に避難させないで、校舎の中に留めてほしい。(校庭避難が原則です。また下校途中など、学校外での行動の仕方を想定させることも重要である。) 保護者は小学校の引き取り後、中学校に向かう方式ではいけないか。(学校としては、不安になっている弟・妹のそばに兄・姉が付き添うことは大切であると考えている。小学生を移動させることは心配であ	生徒アンケートでは、「とても思う」「どちらかと言えばそう思う」合わせて58%の回答であった。今年度は一小との合同防災訓練、集団下校を行った。実際に参加したのは一小出身者のみであったが、来年度は合同引き取り訓練を小学校3校と実施していく。また、今年度は避難訓練前後に指導や振り返りを行う取り組みを行い考え判断する機会を増やしたが、生徒が「自ら判断できる」と回答した割合が60%未満であったのは残念である。 職員は計画を立てる段階から関与し、実際に避難訓練などで直接指導を行うため、意識が高まったものと捉える。生徒、職員との意識に差がある。振り返りを確実に行い、登下校の安全を生徒自身に考えさせ、まとめさせることで、自ら考え、判断する力を伸ばしていく。				
					3	安全指導、避難訓練を通して生徒に望ましい防災の意識を育むことができた教員の割合が80%未満		3	地域、PTA、小学校と協力した行事に参加し、自ら考え判断できるようになったと答えた生徒の割合が80%未満						
					2	安全指導、避難訓練を通して生徒に望ましい防災の意識を育むことができた教員の割合が70%未満		2	地域、PTA、小学校と協力した行事に参加し、自ら考え判断できるようになったと答えた生徒の割合が70%未満						
					1	安全指導、避難訓練を通して生徒に望ましい防災の意識を育むことができた教員の割合が60%未満		1	地域、PTA、小学校と協力した行事に参加し、自ら考え判断できるようになったと答えた生徒の割合が60%未満						
教職員・学校	生徒が安心して学べる環境を整え、学校と家庭、地域、関係機関と連携し、個に応じた指導を行う。	教員が生徒一人ひとりが落ち着いて過ごせる教室環境を作り上げる。さらに、生徒・保護者のニーズに合った関係機関への適切な関わりを行うことで、きめ細かな支援を行う。	授業規律を徹底させ、生徒が落ち着いて学習できる雰囲気を作り上げる。教員は配慮を要する生徒の保護者との面談を適切に行い、保護者が子どもの特性を受容する気持ちを高めるさせる。	1	4	授業規律の徹底が確実に行えた教員の割合が90%以上	3	4	落ち着いて授業に取り組めた生徒の割合が90%以上	先生によって態度を変える生徒がいる。寝る、後ろを向いて話す生徒には厳しく指導してほしい。	生徒アンケートでは、「良く取り組めた」「だいたい取り組めた」を合わせて89%の回答であった。一部生徒で落ち着かない生徒がいるが、生徒は概ね授業に集中することができた。 職員には授業の基本は授業規律であることを周知してきた。3割の職員ができなかったと回答してきた。授業中に注意、指導をしていないのではなく、したにもかかわらず、一部の生徒を授業に集中させることができなかったことで、「できなかった」と回答したと思われる。 学校公開時の保護者アンケートを見ても、授業が全く成り立っていないとの指摘は受けていない。一部落ち着かない生徒の指導は授業者以外の教員や支援者を配置し、授業規律の徹底を図り、生徒の学力を向上させる。				
					3	授業規律の徹底が確実に行えた教員の割合が90%未満		3	落ち着いて授業に取り組めた生徒の割合が90%未満						
					2	授業規律の徹底が確実に行えた教員の割合が80%未満		2	落ち着いて授業に取り組めた生徒の割合が80%未満						
					1	授業規律の徹底が確実に行えた教員の割合が70%未満		1	落ち着いて授業に取り組めた生徒の割合が70%未満						
教職員・学校		教員が生徒の学力向上の策を考え、平素の授業で実践する。さらに、生徒の土曜補習への参加を促し、教員自らも指導に当たり、個に応じた学習補充を行う。	土曜補習授業や学力向上の取組において、教員が指導を行い、普段行えない個別指導を実践し、個に応じた学習補充を行う。	1	4	土曜補習授業、学力向上の取組に3回以上取り組んだ教員の割合が80%以上	3	4	成績が伸びたと実感した生徒の割合が50%以上	土曜補習を始めたころの目的は、下位層の生徒の指導であったのではないか。(今は様々な生徒に対応するように努力している。プリントに難易を付けるなどし、幅広い生徒に対応できるようにする。) 部活の関係で参加できない生徒もいるのではないか。(開始時間を替え、1時間でも参加できるように考えたい。)	土曜補習に参加した生徒のアンケートで、成績が伸びたと実感できた生徒は37%であった。これは5教科についての平均であるが、今年度は数学に力を入れ指導してきた結果、数学のみの回答では、55%の生徒が実感することができた。来年度も同様に土曜補習を実施していくが、補習が必要と認める生徒に対しては、個別に声をかけ、個別指導を行うなど、手厚い指導を行っていく。 夏休み・テスト前の補習授業、土曜補習参加・問題作成などにおいての参加3回以上を目標とした。実際に取り組んだ割合は54%であった。今年度より土曜補習へ教員の参加を実施した。教員が参加することで生徒は授業の内容についても質問することができ、よかったとの感想が出された。来年度の教員の参加者数を増やしたい。				
					3	土曜補習授業、学力向上の取組に3回以上取り組んだ教員の割合が80%未満		3	成績が伸びたと実感した生徒の割合が50%未満						
					2	土曜補習授業、学力向上の取組に3回以上取り組んだ教員の割合が70%未満		2	成績が伸びたと実感した生徒の割合が30%未満						
					1	土曜補習授業、学力向上の取組に3回以上取り組んだ教員の割合が60%未満		1	成績が伸びたと実感した生徒の割合が10%未満						
学校、家庭、地域・社会	防災、防犯・安全への関心を高め、自ら判断し、すすんで行動し、地域・社会に貢献できる子供を育てる。	絆づくりと活力あるコミュニティの形成をめざし、防災訓練、命のミュージアムの開催を行い、人々が支え合う地域、学校を作りを行う。	地域(消防署、警察署など)、小学校、中学校、PTAの協力の基、地域訓練を実施する。また、PTAとの協力の基、命のミュージアムを開催し、自ら進んで行動できる判断力、創造力を育む。	4	4	地域、PTA、小学校などと協力した行事を5回実施	1	4	学校が家庭、地域・社会と一体となった取組を行っていると感じた保護者の割合が80%以上	PTAと協力して取り組んだ「命のメッセージ展」は地域への良い発信役となってくれた。タルクを活用した薬物乱用防止教室もよかった。生徒の感想文がとてもよかった。ジュニアリーダーに中学生が積極的に参加してくれ良かった。中学生が小学生と関わることは大切である。地域の人たちからの声掛けも大切である。小学生が土曜のひろばで一中を訪れるが、中学を知る良い機会となっている。部活動の成果の階段掲示は、子どもたちの励みになりとてもよかった。学校のアピールにもなる。これからも続けて欲しい。	保護者のアンケートで感じていると実感している保護者の割合は58%であった。39パーセントの職員が3回以上参加をしている。今年度より教員一人1回は参加をする目標としたが、90%の職員は参加することができた。5回以上参加した教員は18パーセントであった。教職員が休日や夜にパトロールや行事に参加するようになった。Webや学校だよりで行事の様子を載せてはきたが、職員の参加の認識を得るまでには至らなかった。来年度はさらに教員の参加者数を増やし、生徒が自ら進んで行動できる力を育ませることが課題である。				
					3	地域、PTA、小学校などと協力した行事を4回実施		3	学校が家庭、地域・社会と一体となった取組を行っていると感じた保護者の割合が80%未満						
					2	地域、PTA、小学校などと協力した行事を3回実施		2	学校が家庭、地域・社会と一体となった取組を行っていると感じた保護者の割合が70%未満						
					1	地域、PTA、小学校などと協力した行事を2回実施		1	学校が家庭、地域・社会と一体となった取組を行っていると感じた保護者の割合が60%未満						

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。